

横浜環状南線 都市型トンネル施工技術検討会
第 1 回検討会 議事要旨

(日 時) 平成 19 年 12 月 21 日 (金曜日) 15:30 ~ 17:30

(場 所) 神奈川県社会福祉会館 第 1・2 研修室

(出席者) 委員長 今田 徹 東京都立大学 名誉教授

委員 西村 和夫 首都大学東京大学院 都市環境科学研究科
都市基盤環境工学専攻 教授

真下 英人 独立行政法人土木研究所 道路技術研究グループ
トンネルチーム 上席研究員

小山 幸則 財団法人地域地盤環境研究所 東京事務所 所長

城間 博通 株式会社高速道路総合技術研究所 道路研究部
トンネル研究担当部長

委託者 東日本高速道路株式会社 関東支社 横浜工事事務所

事務局 財団法人高速道路技術センター

(敬称略)

(議事要旨)

1. 本検討会の規約その他について

(資料 - 1 ~ 3 を事務局より説明)

- ・ 資料 - 3 規約 (案) が規約として了承された。
- ・ 規約に基づき、本検討会の配布資料、議事要旨及び審議結果については原則として公表することとされた。
- ・ 委員長により、規約第 3 条第 5 項に規定する委員長の職務代理者に、真下委員が指名された。

2. 全体概要及び検討会の目的について

(資料 - 4 を事務局より説明)

3. 検討項目と今後の進め方について

(資料 - 4 「2. 検討項目と今後の進め方」を事務局より説明)

- ・ 技術的・専門的な議論を進める中で、新たな論点・課題が出てくる場合も考えられるため、柔軟に検討を進めていく必要がある。

4. トンネル標準断面の検討について

(資料 - 4 「3. トンネル標準断面の検討」を事務局より説明)

- ・ 内空断面は、標準的な諸設備の配置等で設定したトンネル標準断面で検討を進めることとする。
- ・ 並行して、より断面を縮小する配置等についても検討すべきである。

5. 検討区間の特徴及び検討すべき課題について

(資料 - 4 「4. 検討区間の特徴及び検討すべき課題」を事務局より説明)

- ・ 区間内にいくつかの支障物件があり、その対応策についても考慮する必要がある。

6. シールド工法の検討手法について

(資料 - 4「5. シールド工法の検討手法」を事務局より説明)

- ・ 数値解析 (FEM解析) によるほか、事例等も参考としながら検討を進めていく。
- ・ トンネル間離隔が狭い箇所への対応が1つの課題であり、シールド構造への影響等について検討が必要である。

7. まとめ

(第1回検討会のまとめとして、以下のとおり意見等の整理がなされた。)

- ・ 近年のシールド技術の進展から、横浜環状南線にもシールド工法を適用できる可能性があり、現地の諸条件等を踏まえて各トンネルへのシールド工法の適用可能性について検討する。
- ・ 地表面・周辺環境への影響、トンネル間離隔が狭い区間の近接施工への対応等について、検討を進めていく。
- ・ ライフライン等の支障物件への対応などについても考慮しながら検討を進める。
- ・ その他の課題も含めて、必要に応じて検討内容や進め方等について修正を加えるなど、柔軟に対応していく。

以上